

佐賀県佐賀郡大和町における 祝言のあいさつ

井上博文

○はじめに

1. 対象地の地理的環境；有明海を抱く穀倉地帯佐賀平野の北部、背振山地にぶつかる所に位置し県都佐賀市に隣接している。
2. 対象地の社会的経済的環境；農業集落であるが、新しい住宅が増え佐賀市への通勤も多くなってきた。
3. 生業；米作を中心とした農業。山側では蜜柑栽培が盛ん。昨今は佐賀市のベッドタウンとして新興住宅が多く建られている。
4. 交通；バスが佐賀市へ頻繁に通う。高校生などは自転車を利用して佐賀市内の高校に通学している。
5. 人口；人口約2万人
6. 調査年月日；平成2年8月18日
7. 教示者；向井 豊氏 (m.M.44)^{(*)1} 農業 奥さん同席
中島マツエ氏 (f.M.45) 農業
八木代美子氏 (f.S.9) 農業、昭和31年に町内から嫁。
8. 調査者；井上博文調査場所；いずれも教示者宅
9. 調査方法；配布の調査要項に従い質問法によった。ただし話題の自然な展開を損なわないよう配慮した。録音有り。

[1] 結納授受のあいさつ^{(*)2}

1. 仲人^{(*)3}が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。
○ワタシワ ~ケオ ダイヒョーシテ ユイノーノ シナオモツテ
マイリマシタ。ベッシノ モクロクノ トーリデ ゴザイマスカラ
モクロクオ カクニンノ ウエ ゴジュノークダサイ。(m.M.44)
私は~家を代表して結納の品を持って参りました。別紙の目録の通り
でございますから、目録を確認の上、御受納下さい。
<中年層以上><上品><かしこまり><上待遇><一般的>
2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。
○タシカニ マチガイ ゴザイマシエン。アリガタク オウケイタシマ
ス。(m.M.44) 確かに間違いございません。有り難くお受け致し

ます。＜中年層以上＞＜上品＞＜かしこまり＞＜上待遇＞＜一般的＞
3. その時の新婦のあいさつ。

一緒に頭を下げる程度で何も言わない。後でお茶を入れる。

[2] 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁^(*)をもらうことが決まった家の人に道で出合って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

○ヨメサンノ デキンサツテ ヨカッタ ネー。オメデトー ゴザイマシター。(f.S.9) お嫁さんがお出来になってよかったねえ。

おめでとうございます。＜中年層以上＞＜中品＞＜親愛＞＜中待遇＞＜一般的＞

2. 嫁をもらう家の方は、そのあいさつに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○オカゲサンデ ヨカ ヨメサーンノ キテクンサル コト ナッタヨー。(f.S.9)

おかげさまでいいお嫁さんが来て下さることになったよ。

＜中年層以上＞＜中品＞＜親愛＞＜中待遇＞＜一般的＞

[3] 嫁を出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことが決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

○アンタン トコラー ヨカ トコロニ コンダ イキンサツテ ナンター。ホンニ ヨカッタ ノマーイ。(m.M.44)

あなたのところはいい所に今度は(嫁に)お行きなさるといふことですねえ。本当によかったねえ。＜中年層以上＞＜中品＞＜親愛＞

＜中待遇＞＜一般的＞

○ヨカッタ ネー。ヨカ ヤニ ヤッタトヤロ ネー。(f.S.9)

よかったねえ。いい家に(嫁に)やったのだろうねえ。

＜中年層以上の女性＞＜中品＞＜親愛＞＜中待遇＞＜一般的＞

2. 嫁に出す家の方は、そのあいさつに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○イロイロ オシェワ ナッタバツテン オカゲー キマツタケン ネ。ホンニー オイモ アンシンシタ サイ。(m.M.44)

いろいろお世話になったけれども、おかげで決ったからね。本当に俺も安心したよ。

<中年層以上の男性><中品><親愛><中待遇><一般的>

○ソーン オカゲデ ネー。イクゴト ナッタ ヨー。(f.S.9)

うーん、おかげえねえ。(嫁に)行くようになったよ。

<中年層以上の女性><中品><親愛><中待遇><一般的>

[4] 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは(親戚以外)、どのようなあいさつをしますか。

1-1. 新郎の父親にはどのようなあいさつをしますか。

○ヨカ ヨメクサンバ ヨーダ ナンター。タイカクノ ヨーシテ

キリョーモ ヨーシテ ホナーニ ヨカ ヨメクサンバ

ヨーダジャツ カンタ。(m.M.44)

いいお嫁さんと呼んだねえ。体格がよくて、器量もよくて本当にいいお嫁さんと呼んだではないですか。

<老年層><中品><親愛><中待遇><一般的>

○ホンジツワ ケッコナ コトデ ゴザイマシタ。ワタシドモミマデ

オツカイクンサツテ アリガトゴザイマシター。キョーワ ヨカッタ

デス ネー。ヒモ ヨー シテ ネー。(f.M.45)

本日は結構なことでございました。わたしどもにまでご招待くださりましてありがとうございます。今日はよかったですねえ。天気も良くてねえ。

<中年層以上><上品><かしこまり><上待遇><一般的>

1-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○イロイロ オシェワ ナッタケドモ コーシテ モー ブジニ

ケッコンシマシタ。コレカラモ ジューライニ バイシマシテ

ヒトツ アノ ヨロシク オネガイシマス。(m.M.44)

いろいろお世話になったけれども、こうしてもう無事に結婚しました。

これからも従来に倍しましてひとつあのよろしくお願ひします。

<中年層以上><上品><かしこまり><上待遇><一般的>

○アリガトゴザイマスー。オカゲサンデ。(f.S.9)

ありがとうございます。おかげ様で。

<中年層以上><中品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

2-1. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

○ホンニー アナタノ トコロモ ヨカ トコロニ エンダン
キマッテ ヨカッタ ナンター。(m.M.44)

本当にあなたのところも良いところに縁談が決ってよかったねえ。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

2-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○アリガト ゴザイマス。 オカゲサンデ。(f.S.9)

ありがとうございます。おかげ様で。

<中年層以上><中品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

[5] 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ⁽⁺⁵⁾

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時、姑はどのようなあいさつをしますか。

○コガン シテ ウチニ ヨメニ キテクイテ イマカラ
オシエワニ ナリマスノデ ヨロシク オネガイシマス。 ナンカ
ワカラ ン コトバ ッカヤ ローケン ワカラ ン コト アッ
トキニワ オシエテクダサーイ。(f.S.9)

このようにして家に嫁にきてくれて、今からお世話になりますのでよろしくお願いします。何か分からないことばかりだろうから、分からないことがある時には教えてください。

<中年層以上><上品><ややかしこまり><上待遇><一般的>

2. そのあいさつに答えて、近所の人にはどのようなあいさつをしますか。

○ソレワ ホント オメデト ゴザイマシタ。 コチラ コソ オシエワ
ニ ナリマス ヨ。(f.S.9)

それは本当におめでとうございました。こちらこそお世話になりますよ。

<中年層以上><上品><ややかしこまり><上待遇><一般的>

[6] 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男(29歳)に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、昼下がりの路上で、どのようなあいさつをしますか。

○オメデト ゴザイマシタ。 ヨカ ヨメサン モーテ ヨカッタ
ナンター。 モー コイデ アンタモ アンシンシタ ローダ。

(m.M.44) おめでとうございます。いいお嫁さんもらってよかったですねえ。もうこれであなたも安心しただろうね。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

○コノ アイダワ オシエワニ ナリマシター。イロイロ アガンゴテーネイニ ネー。アリガトゴザイマシター。(f.S.9)

この間はお世話になりました。いろいろあのようにご丁寧にね。ありがとうございました。

<中年層以上><中品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○イロイロ オシエワニ ナツタケドモ オカゲサンデー ヨメサンモロタケン ネ。オシエワ ナツタ ネー。(m.M.44)

いろいろお世話になったけれどもおかげさまで嫁さんもらったからね。お世話になったねえ。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

○ナンモ オカマイガ デキマセンデー。オイワイ イタダイテアリガトゴザイマシター。タクサン イタダイテ。(f.S.9)

何もおかまいができませんで。お祝いいただいてありがとうございました。たくさんいただいて。

<中年層以上><中品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

[7] 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦(あるいは両親)がお礼^(*)に行った時、どのようなあいさつをしますか。

○コノゴロカラ ホンニ ゴクロサンデゴザンシタ。オシエワニ ナツテ ナンター。コイカラモ イッチョー イママデトオナジゴテ ヨロシユー タノンドク パンター。(m.M.44)

この頃から本当にごくろう様でした。お世話になってねえ。これからもひとつ今までと同じようによろしく頼みますよ。

<中年層以上><上品><ややかしこまり><上待遇><一般的>

2. 仲人は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○イヤー ナンニモ デケンジェ ナンター。マー ロクナコター デケンジャツタバッテン マー アノー ヨロシユー タノンドクケン。(m.M.44)

いや、何にもできなくてねえ。まあろくなことはできなかったけれ

ども、まああの、よろしく頼んでおくから。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

[8] 嫁のはじめての里帰りのあいさつ (*7) (8)

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

○ソシタラ カエッテ キマスー。アリガトーゴザイマスー。

(f.S.9) そしたら帰ってきます。ありがとうございます。

<青~中年層><中品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

2. 両親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。(f.S.9)

○イタテ キンシャーイ。フターツ トマッテ キンシャイ。

行ってきなさい。二晩泊まってきなさい。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

[注]

(*1) 記号はmが男性、fが女性を示し、M、T、Sはそれぞれ明治、大正、昭和生まれを、その次の数字は生まれた年を表している。したがって、(m.M.44)は男性で明治44年生まれであることを表している。なお、文例の後にこの記号で誰の教示によるかを示した。

(*2) 仲人の呼称は、ナカダチ、親しみをこめてナカダチサン(ナカダツァン)、が普通であり、またナカウド・ナカウドサンとも言う。現在はナコード・ナコードサンが使われる。仲人は男の方から依頼を受けると娘の家へ足繁く通うことになる。一回で済むことはなく、

○ナカウド スッキ ゴーリワ イッソク スリキルツ。ソガン

カヨーモ オヨメサン デケンチュッ イミ。(f.M.45)

仲人すると草履は一足擦り切れる。そんなに通ってもお嫁さんはできないという意味。

というのも、

○ナイダケ ナカウドサンバ カヨワセツバ ネ。ネウチオ ネ。

オロ ミラルッテ ユーヨーニ ムカシカッ トリヨッタゴタル ネ。

(f.M.45) なるだけ仲人さんを通わせないとね。値打をね。

安く見られるというように昔からとっていたようだね。

ある程度仲人が娘の家に通ってある頃合になると、娘の親は、

○モー ナンベン キンサツル モン。ソロソロ ヘンジバ シェンバ
イカン バーイ。(f.M.45) もうなんべんもいらっしゃるもの。
そろそろ返事をしないとイケない。

ということで決心すると、仲人が持って来た酒を飲むことになる。これをカタメノサカズキとって、それを飲めば結婚を承諾したことになり、必ず嫁に出さなければならない。

話がまとまるとクチガタメとって、仲立ちさんに酒一升を持って行ってもらい娘の方の親類に披露する。親類の人まで同意してくれたときはイッショーガッショー・イッショーザッショーとって、鯛一匹、酒一升を用意する。先方が酒を受け取れば承知してくれたことになる。これが済めば日取りを決める。

(*3) 結納のことをカタメと言ひ、結納がきたらカタメピラキをして披露する。結納の時の宴会をオチャゴ(「チャオ ヒラク」とも)という。近所の人(オチャゴオチチとって冠婚葬祭などの近所付きあいの仲間)を招待し、だいたい昼の三時ないし四時頃にする。娘の両親は招待した人に対して例えば次のような挨拶をする。

○ナガイ アイダ オシェワニ ナリマシタ。コレカラモ ヨロシク
オシェワ ナラント オモイマスノデ ヨロシク オネガイモーシア
ゲマス。アリガトゴザイマシター。(f.M.45)

長い間お世話になりました。これからもお世話になると思いますので
よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

そしてムスメワカレノサカズキ(娘別れの杯)をする。

オチャゴの材料は、酒(例えば3・5・7升というように奇数が届けられる)、野菜(ゴボウ、人参、大根、蓮根、白菜など)、蒲鉾、ちくわなどが婿方の方から届けられる。また燃料としてカラスミ(木炭)を一束ね、昔は一俵持って来た。これらを使って近所の人がかしゅうて(手伝って)家で料理してオチャゴをする。縁起ものとして、ムスビダイとって、鯛(真鯛)二匹も届けられる。また、鯛が届けられることもあった。

○ムコサンブリノ ヨカゴテ プリノ フトカトノ キヨツタデス
ネー。(f.M.45) 婿が立派であるように鯛の大きいものが来ていましたよ。

これを刺身にして皆にふるまい、娘は座を回りながら酒を酌んで挨拶をする。

(*4) 嫁の呼称はヨメサン・オヨメサンが普通であるが、親しみをこめて、

ヨメクサンとも呼ばれる。これは丁寧な言い方でもあると言う。義理の両親は昔はオトツツァン、オッカサンと呼び、特に姑の卑称としてシュートガカがある。

(*5) 姑が嫁を連れて近所に挨拶まわりをすることをオチャクバリ・オチャクバイ(お茶配り)と言う。普通のお茶を持って近所へ顔見せに行く。姑が挨拶をし、嫁はほとんど話さない。終戦後、簡素化してオチャクバリはしなくなった。その代わりに近所の人を結婚式に席を設けて招待している。

(*6) 仲人へのお礼としては酒と魚を持っていく。お金は祝儀の一割ぐらい。いわばアルキチン(歩き賃)である。

(*7) 結婚式のアケノヒ(翌日)にミツメアルキ・ミツメといって、嫁の実家に婿、両親、仲人の男側で出向く。嫁の実家では贈をして待っている。この日は泊まらずに日帰りする。

○モー ウチノコジャ ナカケン カエランバ ナランデス モンネー。

(f.M.45) もううちの子ではないから帰らないといけないんですよ。その時に娘が実家の両親にいろいろとお世話になったことのお礼を言うと、

○モー ヨカ ヨカー。モー イロイロ イワンチャ ヨカー。

(f.M.45) もういい、いい。もういろいろ言わなくてもいい。などと応える。

(*8) 嫁が実家に初めて帰ることをハツアルキ(初歩き)、またはハツモドリと言う。再び実家から婚家へ帰る時には必ず実母かそれに代わる女の人が付いて来た。実家にハツアルキマンジュー(初歩き饅頭)といって饅頭(orポタモチ)を持って帰り近所に配る。反対に嫁ぎ先へ戻る時にも饅頭(orポタモチ)作って帰る。

(いのうえひろふみ 広島大学文学部助手)